

令和8年9月18日

保護者の皆様へ

滑川市立西部小学校

「家庭学習のすすめ」とタブレットの持ち帰りについて

本校では、「進んで学ぶ子供」を目指し、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けるとともに、自ら学ぶ意欲を育む指導の充実を通して、学力の向上に取り組んでいます。

学力の向上には、家庭学習を習慣化することも大切です。ご家庭のご協力をいただきながら、学校で学んだことを家庭学習で振り返ったり、さらに興味をもったことを調べたりすることで、学習内容の定着だけでなく、子供たちの「もっと学びたい」という意欲や自信にもつながると考えています。

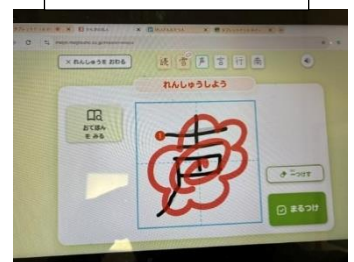
これまで推奨してきた自主学習ノートを使った家庭学習に加え、学校では、学年の発達段階に応じて、タブレットを活用して自ら学ぶ学習方法についても指導していきます。デジタル教科書を使って学習を振り返ったり、デジタルドリルで繰り返し練習したり、興味をもったことを調べたりするなど、タブレットを学びの道具として活用していきます。



「教師に出されたからする」だけでなく、「自分は何を学びたいのか」「どうすれば分かるようになるのか」を自分で考え、自分に合った学習方法を選ぶことは、これからの学びにおいて大切な力です。学校で身に付けた学び方を家庭でも生かし、子供たちが自分で学びを進めたり、興味関心をさらに広げたりできるよう、タブレットの活用を進めていきます。

そのため、宿題についてもタブレットを活用した課題を出すことがあります。また、宿題に限らず、子供たちが自分の興味や関心に応じて学ぶことができるよう、毎日のタブレットの持ち帰りと充電をお願いします。あわせて、ご家庭でのタブレットの使用状況の確認にもご協力をお願いいたします。

例 2年漢字学習



また、子供たちが家庭学習に取り組む姿を見守り、「よく頑張っているね」「こんなことができるようになったね」「どんなことを調べたの？」など、励ましや問いかけの言葉をかけていただければと思います。ご家庭と学校が一緒になって、子供たちの「学びたい」「やってみたい」「もっと知りたい」という気持ちを育てていきたいと考えています。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

自主学習ノートやタブレットを使って、家庭学習をしよう

- 1 良好な学習環境をつくろう
 - ・机の上やまわりを整とんする。おもちゃ等、学習に必要なのないものは、見えな
いところにしまう。
 - ・テレビやゲームを消す。
 - ・姿勢や鉛筆の持ち方に気を付ける。
- 2 目標とする家庭学習の時間 **10分×学年+10分**
学年に応じた目安の時間です。(学習内容や子供の実態に応じて調整)
- 3 「こつこつ学習」と「チャレンジ学習」に取り組もう

力をつける「こつこつ学習」	力をのばす「チャレンジ学習」
毎日取り組み、基礎・基本をしっかり身に付ける学習	時間があるときに、自分の興味・関心を 生かして取り組む学習
・新出漢字を正しく読んだり書いたりする。(1年生はひらがなやカタカナ、3年生はローマ字を含む) ・計算を速く正しくできるようにする。 ・学校の学習の復習をする。 ・デジタルドリルやデジタル教科書、「らっこたん」を使って繰り返し復習する。 ・自分の音読や外国語のスピーチを録音して練習する。	・調べ学習をする。 ・作文や詩、俳句や短歌、新聞づくりなど、自分のしたことや考えたことを書く。 ・ネットで調べたり、ものづくりをしたりするなど、好きなことに挑戦する。 ・調べたことを Google スライドを使ってまとめる。 ・「できっと(学習支援ソフト)」を使って、新聞記事を読んで感想をまとめたり、地域のことを調べたり、新聞づくりに挑戦したりする。

※ 自学ノートやタブレットを上手に活用し、自分に合った学び方を見付けていくことができるよう指導します。詳しい内容は、各学年の「家庭学習の手引き」を参考にしてください。また、どのような学習に取り組んでいるのか、親子で話題にしてください。

タブレットを家庭学習で活用するに当たって

タブレットを家庭学習に取り入れるに当たり、子供たちが自分の健康に気を付けながら、目的や時間を考えて上手に活用する力を身に付けられるよう指導していきます。

- 自分の健康に留意しながら活用する意識を高めます
 - ・目を画面から30cm以上離して使う…よい姿勢を保って使いましょう。
 - ・長時間続けて画面を見ない…30分に1回は画面から目を離し遠くを見ましょう。
 - ・時間や学習内容を決めて使う…「寝る1時間前は使用を控える」など、家族と一緒にルールを決めて使いましょう。
- タブレットの重さが負担にならないよう配慮します
家庭学習に必要な学習用具のみ持ち帰るなど、タブレットを含めた荷物の重さにも配慮していきます。
デジタル教科書の利用になれるまでは、算数の教科書は持ち帰ります。デジタル教科書の活用に慣れてきた段階で、持ち帰る学習用具についても学年の実態に応じて見直していきます。